

それはまるで深淵のよ  
うな

ウルスラドゴーン

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

私は考古学者だった。仲間と互いに研究しあい、新たな発見をし、また研究をして生きていた。そう、”それ”を発見するまでは……

# 目次

たった”それ”だけの物語 | 1



# たつた”それ”だけの物語

私がおかしいなんて思わないでくれ。私なんかよりおかしい人はいるだろう？  
そうさな：あれを：：あの日：：：私達は：：：

”世界を見つけたんだよ”

何をいつているのかわからないって顔をしているね。私もよく分からないが、あれは少なくともあの日の私達にとって、世界そのものだったのだよ。

まあ難しい言い方になるかもしれないがね。

君は宇宙に行ったことあるかい？ほとんどの人はないだろうね。では地球の外に本当に宇宙が存在していると思うかい？：：：そうかい、思うのかい。ではなぜ？行ったこともないのに？え？本や記事がたくさんあるって？そんなもの嘘かもしれないじゃないか。

でもあの日見たものは宇宙という空間に存在してても存在してなからうと、それは”

世界”だと私達は思ったんだ。君によって見えるものは違うかもしれないがね。

私にとつての世界とは宇宙そのものであり、宇宙の外のことである。

そもそも、世界とは何か、という定義から始めなくちゃいけないかね。

まあ何にせよ、”それ”は見る人によって違うものになる、と言いたいんだがね。

さて、”世界”そのものを見つけて私達はどうしたのかという……どうしたと思  
うかね？少年？

「うーんとね！みんなですれを分け合った？」

ふふつ……少年は純粹だね。例え話だがね。少年の大好きな好物が目の前にあつて、  
でもそれを他の人に分け与えなくてはならない。そこで自分だけ独り占めできるよ  
うな状況にできたらどうする？

「皆にわけないで、自分だけのものにする！」

……  
そうだ。あの日の私達は奪い合ったのさ。昔は研究熱心で仲間思いだったのがね

いいか、目先のものに飛びつくと大きな過ちを犯し、何かを失うだろう。

それは人生の中で必要な事だったり、

それは友情だったり

それは物だったり、それは様々だ。

私は人間の醜い部分を見てしまったがね。

クククツ：いやあ：何であれ、どうしてあんなところに”世界”があつたのかねえ

…

あれがなければこんなことにならなかつたのかね……。そうだな：私達が”世界”に見えたものは今の少年の目にはどのようなように映るのだろうか。

今一番大事なものはなんだい？母親かい？お父さんかい？それとも………

” 夢 ” かい？

「な、なにを言ってるの？おじさん。怖いよ。やめてよ」

ふふ、私はね。嬉しいんだよ。この話を聞いてくれたことが。”それ”を見つけた話を聞いてくれるのが！私とはつくのむかしにおかしくなっていたらしい。少年よ……君にとつていちばん大事なモノを他の奴らに取られそうになったとき、君はどうしているかな？

私は……怖かった……